



10月20日、四十九所神社にて「高山流鏝馬」が行われました。「高山流鏝馬」はおよそ900年の歴史を誇る伝統行事です。元は国家安泰、五穀豊穰、悪疫退散を祈願する年占いで、現代でもこの願いが込められています。

狩衣装束にあやい笠を身にまとい、弓受けの儀により神の化身となった射手は、神馬とともに約330mの馬場を駆け抜けながら、合計9本の矢を射ます。全国的に成人の射手が多い流鏝馬ですが、高山流鏝馬は、毎年その年の中学2年生が射手を務めます。

今年の射手は、高山中学校2年生の武田創君。後射手は昨年射手の高山中学校3年生の中村考晴君が務めました。二人の若き射手が、たくさんの人々の期待と願いを一身に受け、馬場を駆け抜けました。



広報きもつき vol.234 December 2024

目次

- 二 高山流鏝馬
- 六 まちの話題 ほか
- 十 町からのお知らせ
- 十三 志布志石油備蓄基地からのお知らせ ほか
- 十四 肝付町職員採用試験実施
- 十五 町立病院だより ほか
- 十六 文化センターからのお知らせ
- 十八 補筆中学校・高校だより
- 十九 教育委員会コラム
- 二十 教育長室の窓から
- 二十一 地域おこし協力隊活動報告 ほか
- 二十二 セーフティライフくになみ岳
- 二十三 栄養士さんが教える身体が喜ぶハッピーレシピ
- 二十四 本の森
- 二十五 有料広告
- 二十六 子育て支援施設紹介
- ほか
- 二十七 人のうごき ほか
- 二十八 暮らしのカレンダー

高山流鏑馬

二〇二四年射手

武田創の挑戦

14歳の挑戦

8月16日、武田創君は流鏑馬保存会より正式に射手に任命されました。

創君がおよそ900年の歴史を誇る高山流鏑馬の大舞台へ名乗りをあげたのは、長きにわたる高山流鏑馬の歴史を絶やさぬため。

創君は、小学校1年生の頃から日夜空手に打ち込み、いくつもの大会で入賞を果たしている実力者。そのため、一度は空手のために流鏑馬保存会からの申し入れを断りましたが、二度目の申し入れが

あった際に、このまま流鏑馬を絶やしてはいけないという責任感に駆られ、射手として挑戦することに決めました。流鏑馬と空手、二足の草鞋で挑む50日間の挑戦が幕を開けました。



人馬一体となった50日

9月、創君の挑戦がいよいよ始まりました。流鏑馬保存会や昨年射手の中村考晴君のサポートを受けながら練習をスタート。空手の練習とも両立させるため、かねてより短い日数での流鏑馬練習となりましたが、持ち前の運動神経を活かし、先輩たちに劣らぬ速度で射手として成長していきました。

神馬となる「はやて号」「令号」とも息を合わせて射手として練習に励んだ創君は、約2か月の練習の後、潮がけの日を迎え、柏原海岸にて同級生たちに見守られながら身を清め、本番を待つのみとなりました。

その時、少年は神になる

10月20日、ついに迎えた当日。

雨知らずの流鏑馬。多くの人が見守る中、凱旋パレードが始まり、行く先々で流鏑馬を一目見ようと待つ人たちが、一行を拍手や声援で激励しました。

凱旋と弓受けの儀を終え、いよいよ本番。静まりかえった馬場に射手の掛け声が響き渡り、神事が始まります。

多くの観客が見守る中、はやて号がここの一番の走りを見せ、馬場を駆け抜けま

す。そんなはやて号の勢いに負けじと息を合わせて、力いっぱい弓を引き、矢を放つ創君、その後ろを守るように全力で走る後射手の考晴君。

ダンツと大きな音を馬場に響かせながら走る度に歓声が上がりました。

結果、見事8本命中、そのうち白羽の矢を含め4本が籠り矢という素晴らしい成績で奉納を締めくくり、馬場を後にしました。



保存会会長の有馬さんは「ここまで本当によく頑張ってくれたと思います。今日の走りも百点です。創君の姿を見て射手を目指す子が出てきてくれたら嬉しいですよ」と、流鏑馬の存続に尽力してくれた創君を労いました。

創君は、「8本の中させることができてもよかったです。またこれからは流鏑馬で学んだことを活かして、空手や勉強を頑張っていきたいです。」と話しました。一人の少年が、たくさんの人々に支えられながら、大役を果たし、また一歩成長した流鏑馬奉納となりました。

写真提供 石川 徳美

千歳 弘人

